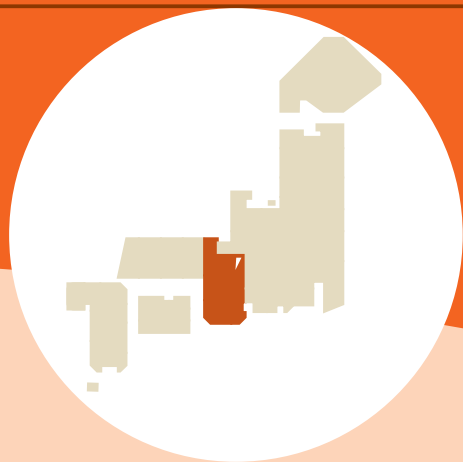


近畿



p.40 滋賀県

松井 伸二さん
ソフトバレーボール



p.41 滋賀県

早川 浩一さん
ディスクゴルフ



p.42 京都府

宮本 充さん
パドルテニス



p.43 京都府

上月 俊行さん
健康マーじゃん



p.44 大阪府

木下 修一さん
剣道



p.45 兵庫県

田中 秀明さん
ゴルフ



p.46 兵庫県

岩崎 真由美さん
剣道



p.47 奈良県

池原 清文さん
ソフトボール



p.48 京都市

中西 昇さん
グラウンド・ゴルフ



p.49 京都市

谷口 主嘉さん
ダンススポーツ



p.50 大阪市

東 富和さん
サッカー



p.51 堺市

渡利 立美さん
水泳





ソフトバレーボール

まつ い しん じ
松井 伸二 さん

びわこ
(監督兼選手)

70歳

● 参加歴：3回目

出会いに恵まれた3度目のねんりんピック

「なんじゃこりゃー」。正法寺の岐阜大仏を見た時の衝撃は今でも脳裏に焼きついています。ぎふ大会に出場しなければ、この出会いはなかったでしょう。

妻と私にとって、ねんりんピックは今回が3回目の出場となりました。1回目はあきた大会で、試合中に腰に激痛が走り、人生初の救急車(妻は付き添い)。その時の大館市民病院の診察券を今も持っています。2回目はえひめ大会で、フルセット、デュース、デュースの死闘の末のメダル。試合後にお互いの健闘を讃え、抱き合った静岡県臈月倶楽部の皆さんに、またお会いしたいです。

今大会では神様がどんなドラマを準備しているかわくわく・ドキドキでした。そもそも、今大会の出場権獲得にもドラマがありました。予選を全敗で終え、順位決定戦と決勝リーグ戦では下克上、下克上の連続でまさかの優勝。ねんりんピックへ行きたいという強い想いがそうさせたのでしょうか。ねんりんピックにはそんな魅力があるのです。

大会では全国の知り合いのチームとの再会や、お土産交換、地元岐阜のソフトバレーボール仲間のサプライズ応援など、うれしい出来事の連続でした。試合では、もう緊張する歳でもないのに緊張し、普段のチーム力なら十分勝てる相手にも、最後の1点が取れずに負ける試合が2試合あり、全国大会で勝つことの難しさをあらためて痛感した次第です。

ねんりんピックのもう一つの楽しみは、地元グルメと観光。妻のリクエストで、岐阜のソウルフード「冷やしたぬきそば」のお店へ。量の多さに驚き、伝票はなく、食べたものを自己申

告する会計システムにも驚きました。岐阜には嘘をつく悪い人がいない証ですね。

岐阜大仏は、冒頭の通り、とても衝撃を受けました。正面の椅子に座って大仏を眺めていると「あの時、あいつがミスしなければメダルを取れたのに……」とってしまう自分の心・器の小ささに気づかされ、嫌なことが吹っ飛び、いい思い出だけが残る大会となりました。

ねんりんピックに出場することを目標にソフトバレーボールを続け、気がつけばもう70歳。私と同じ想いのソフトバレーボール愛好家がたくさんいると思います。より多くの人にねんりんピックでしか味わえない感動を体験してほしいです。私もチャンスがあれば、また出場したいと思います。

ぎふ大会開催に携わったすべての皆様に感謝し、ねんりんピックが私たちの目標としていつまでも続くことを願います。次はどんなドラマが待っているか楽しみです。



試合前はチーム全員リラックスの表情。(本人左端、妻右端)



ディスクゴルフ

滋賀県
(選手代表)

はやかわ こういち
早川 浩一さん
63歳
● 参加歴：1回目

初出場でつかんだディスクゴルフの銀メダル

初めて参加したねんりんピックで、銀メダルを獲得しました。

ぎふ大会で数十年ぶりにディスクゴルフが公式競技に入ると聞き、ぜひ参加したいと思ったものの、当時は年齢的に参加資格がありませんでした。しかし、コロナ禍で大会が延期となったことで参加できることに。自分にとっては幸運な巡りあわせとなりました。最初は、どこから開催連絡が来るのか、どうやってエントリーするのも分からない状態でしたが、滋賀県社会福祉協議会から連絡を受け、ディスクゴルフを扱う滋賀県フライングディスク協会として選考大会の実施から選手としての行動まで、滋賀県社会福祉協議会より懇切丁寧に教えていただき大変助かりました。

目標は、県代表資格を取って大会で優勝すること。普段から近隣府県との交流大会が盛んで、全国各地で行われる公式戦にも日本各地から競技者が集まってきます。常に優勝者は日本一ということになりますが、都道府県の代表として参加するねんりんピックには重みを感じています。

ディスクゴルフとは、フライングディスク(俗にいうfrisbee)を投げてゴールに入れるまでの回数の少なさを競うゴルフと同じような競技です。適度な運動性があり、競技性や奥の深さも備えているため、飽きずに末永く楽しめるスポーツです。なかなか目に触れるチャンスがないため知らない人が多いのですが、今回のねんりんピック



練習にも気合が入る。

をきっかけにもっと広まれば良いと思っています。

コースレイアウトは大会ごとに違うため、前日に公式練習があります。総合開会式と重なっていたため時間が足らずに細かい調整ができなかったのが悔やまれますが、総合開会式はとても楽しかったです。多くの関係者やアトラクション演技者が長期にわたり検討・リハーサルを繰り返してつくり上げた式典で、見ごたえがありました。

試合は、午前中のスコアでトップと1投差の部門2位タイだったのですが、午後のラウンドが変則的な組み合わせでトップの人と一緒に周れなかったため、思うようにスコアが詰められずに逆転できませんでした。しかし、2位タイから単独2位に上がり、銀メダルを獲得しました。

目標だった優勝には届きませんでしたが、とても充実した1日でした。

ディスクゴルフは、当面ねんりんピックに採用されていませんが、機会があれば、また滋賀県代表として参加できるように、日々技を磨きながら健康的に暮らしていきたいと思っています。



試合が行われた御嵩町のキャラクター・ミーモクんと記念撮影。



近畿
京都府

2025 GIFU
NENRINPIC

パドルテニス

京都ふれ愛
(選手)

みやもと みつる
宮本 充さん

73歳

● 参加歴：1回目

多くの選手と交流し有意義で楽しい時間に

10月17日から21日に、ぎふ大会に初参加しました。種目はパドルテニス。パドルテニスはアメリカ発祥テニスの縮小版スポーツです。板状のラケット（パドル）と空気圧の柔らかい硬式テニスボールを使用することで、テニスコートの約3分の1のコート（バドミントンコートとほぼ同じぐらい）でプレイすることができ、基本技術やルールがほとんど硬式テニスと同じなので、テニス経験者が親しみやすいラケットスポーツです。

我が京都ふれ愛チームは、京丹波町、南丹市のメンバーを中心とする硬式テニスの同好会から有志で構成された、男性・女性各3人のグループです。

私は大阪出身ですが、長年浜松でサラリーマン生活を続け、65歳で関西に戻り、縁あって京丹波町に移住してきた“新人京都府人”です。この3月にリーダーに誘われて初めてパドルテニスを経験し、半年後の大会を目標に月2回程度の練習に参加してきました。8月に監督にちょっとしたアクシデントがあり、参加できるかどうか心配されたこともありましたが、何とか大会に間に合い、一同一安心。

17日にいよいよねりんピック本番を迎え、京都府の選手の結団式の後、バス4台で名古屋のホテルへ。その夜は夕食会で親睦を深め、翌朝、総合開会式が行われる長良川競技場へ向かいました。全国から約1万人の選手たちが整列し、三笠宮彬子さまご来場のもと執り行われました。彬子さまのおことば、選手宣誓、きよか炬火点火と続き、式の後半はフォークダ

ンス、選手たちも参加しての郡上踊りで盛り上がり、予想を超える盛大さで感激しました。

興奮の総合開会式の後、パドルテニスの会場のある多治見のパロー文化ホールへ。開始式ではチームのメンバーの一人が高齢者賞の表彰を受けるサプライズもありました。

翌日は多治見市総合体育館で予選リーグ、次の日は決勝トーナメントと交流試合を行いました。経験6カ月の私は惨敗でしたが、多くの試合を体験できて、楽しく有意義な大会になりました。

大会中は競技だけでなく、夜の交流親睦会も楽しく、有意義な(?)情報交換ができたことは貴重な経験になりました。この年になって初めての新しい体験ができるのはうれしいことです。できれば今後も、何かの種目で参加できたらと思っています。ねりんピックはスポーツだけでなく、囲碁、俳句、健康マージャン、将棋、かるたなど文化交流大会も行われます。皆さんもぜひ、ご自分のできる種目で参加されてみてはいかがでしょうか。



総合開会式でチームメイトと一緒に記念撮影。(左から2番目)



近畿
京都府

2025 GIFU
NENRINPIC

健康マーじゃん

京都ねんりん会
(選手代表)

こうづき としゆき
上月 俊行さん

74歳

● 参加歴：2回目

健康第一で腕に磨きをかけ、また参加したい

京都府では例年5月上旬に予選会を兼ねた大会が2日間にわたり行われ、昨年度のねんりんピック参加者を除く成績上位4名がねんりんピック参加者に選出されます。私は2020年にぎふ大会の選考会にて上位で選出されましたが、コロナ禍により中止となりました。参加願望を持ちながら2023年、えひめ大会で初めてねんりんピックに参加しました。そして個人戦ブロック別で2位になりました(役満である国士無双ができました)。

今回は過去の経験を生かして団体戦&個人戦でトップを目指そうと決意を持って臨みましたが、運がなくて先リーチをかけても後リーチの方に打たれることが多々あり、親番のたびに駆け引きをし、トップを取ったり取られたりを繰り返しました。

やはり、マーじゃんは運が6割以上と言われるだけに、どのように打つか、今後に生かしていくことが大事だと思いました。京都府の他のメンバーも、初めての参加で焦って思うように打てなかったり、昨年の国民文化祭上位入賞者が実力を発揮できなかったり、初参加で体調を崩したりと、思うような結果を残すことはできませんでした。でも、他県の方と気軽に話ができて、対戦相手の川崎市の選手の方から川崎大師ののど飴をいただいたりと、良い思い出になりました。

そして今回は、ねんりんピック2回目の参加にあたり、自分自身を奮い立たせるために、京都府選手団の旗手に挑戦しました。今後の人生においても前向きに活動することが大事だと教えてくれる、良い思い出となりました。関係者の皆様に感謝しています。貴重な経験をさせて

いただき、ありがとうございました。

また、今回トップを目指しましたが、参加されていた全国の方はかなりのマーじゃん経験があり、残念ながら目標を達成することはできませんでした。今回の経験を持って、次回(埼玉県)は参加資格がありませんので、次々回(東京)のねんりんピックに照準を合わせ、日々努力していきたいと思えます。

ねんりんピックには同じ年齢層の方が参加され、いきいきと健康マーじゃんを楽しんでおられます。今回の健康マーじゃん参加者の男性最高齢は97歳、女性最高齢が87歳とお二人とも年齢を感じさせない姿を拝見し感銘を受けました。今後も健康第一で、好きな健康マーじゃんに精進していきますことを誓います。

「あした(あかるく・しゃべる・たのしく)」を目指して日々頑張っていきます。



総合開会式では京都府選手団の旗手を務め、貴重な思い出に。



近畿
大阪府

2025 GIFU
NENRINPIC

剣道

大阪府
(監督兼選手)

きのした しゅういち
木下 修一さん

70歳

●参加歴：3回目

交剣知愛の気持ちですべての人に感謝したい

4月に大阪府代表選考会で副将として選出していただき、6人のチームメイトと今回の大会に臨むこととなり、6カ月間いろいろな所で稽古や練習試合をやってきました。途中、1人のメンバーが都合により出場できなくなり、補欠なしの5人になりました。しかし、皆で励まし合い頑張ってきました。

今回、監督という大役まで仰せつかり、また大阪府選手団の旗手にも選ばれ、結団式では選手宣誓まですることとなり、緊張感を持って臨みました。

10月17日、新大阪駅からバスに乗り、前泊地の郡上市に到着、翌日には総合開会式が行われる岐阜市へ移動しました。

総合開会式の会場は、岐阜城の近くにある長良川競技場でした。総合開会式が始まり、私は旗手として大阪府の旗を掲げて誇らしい想いになりました。イベントでは郡上踊りが催され、参加している選手も輪に入って楽しそうに踊っている姿を見て、感慨深い想いになりました。会場にはいろいろなお店が出ていて、楽しい時間を過ごすことができました。

その後、私だけは皆さんと別れて、試合会場のある関市にて監督会議に参加しました。その際に、関市からたくさんのお土産をいただき感謝しております。

監督会議終了後、バスで多治見市に向かい、その夕食会場で東京代表として参加している高校の後輩と会い、大阪市代表で来られている先輩と3人で明日の健闘を誓い合いました。

そして試合当日。会場には少し緊張感が

漂っていましたが、歓迎アトラクションの可愛いチアリーディングを拝見して少し心が和みました。

さあ、試合開始。青森県代表チームと対戦、なんとか4対1で勝ち、他のチームの勝敗を見守ります。一番の強豪と思っていた岐阜Cチームはなんと北九州市チームに5対0での勝利、次に我がチームが5対0で勝っても厳しい状況でした。

次の対戦は北九州市、成績は3対0での勝利でしたが、岐阜Cチームはなんと青森県チームに5対0での勝利、万事休す、戦いは終わりました。

2勝したのに、誰も負けていないのに、決勝トーナメントには上がりませんでした。これがねんりんピックの難しさです。

しかし、3日間、本当に楽しい時間を過ごさせていただき感謝しかありません。今回お世話になった関係者の皆様、審判員、一緒に戦った大阪府チームメイト、また、お互いに応援合った大阪市、堺市チームの選手の方々、対戦相手のチームの方々、本当にありがとうございました。剣道の心、交剣知愛の気持ちを込めて感謝の意を表します。



チーム一丸となって全力を尽くした
大阪府のチームメイトとともに。(左端)



近畿
兵庫県

2025 GIFU
NENRINPIC

ゴルフ

はばたんますたーず 2025
(選手代表)

たなか ひであき
田中 秀明さん

64歳

●参加歴：2回目

名門コースで味わった喜びと悔しさ

ぎふ大会のゴルフの試合会場は岐阜関カントリー倶楽部。過去に男女プロゴルフの日本オープンや日本女子オープンなど、数々の公式戦が開催された名門コースと聞き、ぜひその舞台に立ちたいと兵庫県の予選会に参加しました。

兵庫県からの参加枠は3名で、なんとか2位となり出場が決定しほっとしていたら、1位の方が辞退されたため1位扱いになって、兵庫県チームのキャプテンに任命されてしまいました。兵庫県のねりんピック担当事務局からの連絡事項などを他のメンバーに伝えたりしなければいけないのですが、なんとか無事に役目を果たせたのではないかと、ほっとしています。

ねりんピックは土曜日に開会式があり、兵庫県選手団は金曜日に前泊して大会に臨みます。ゴルフの競技は月曜日で日程が空いてしまいますので、宿泊費用の関係で総合開会式には参加しませんでした。日曜日に長良川温泉に宿泊し、岐阜城のライトアップを眺めながらの

温泉は最高で、疲れを癒し、体調万全で大会に臨みました。

ただ、楽しみにしていた長良川の鵜飼いが、開会式の3日前に終了していたのがちょっと残念でした。全国から集まった選手たちも楽しみにしていたのではないかと思いますので、岐阜県知事様にはそのあたりの配慮をしていただければと思いました。

ゴルフの朝は早いので、朝風呂やホテルの朝食は我慢して会場に向かいました。当日は秋晴れの、まさにゴルフ日和。素晴らしいコースの中、前半は自分で言うのもなんですが、初めてのコースで2オーバーで折り返すことができ、上出来の内容でした。このままいけたらと考えていましたが、やはりゴルフは甘くありません。最後の5ホールくらいから崩れ……残念ながら目標にしていた70台では回れませんでした。

結果は、個人戦はダブルペリアで微妙な12位でしたが、はばたんますたーず 2025 は団体戦で優秀賞をいただきました。

今後はもう少しまくなって、東京大会でリベンジを誓う今日この頃です。ゴルフ場の営業の関係もあると思いますが、せっかくのねりんピックですので、ゴルフの選手も開会式に参加しやすいよう日曜日に試合を開催していただけたらと願っています。なお、写真は生真面目な県事務局の担当が、大会係員さんに注意されながら撮ってくれたもので、ゴルフ大会関係者の皆さんにはこの場をお借りして、担当者で代わりお詫び申し上げます。



さあ、頑張るぞー! (後列左端)



近畿
兵庫県

2025 GIFU
NENRINPIC

剣道

いわさき まゆみ
岩崎 真由美さん

60歳

●参加歴：1回目

兵庫県
(選手)

生涯現役 ～兵庫県初の女性剣士として出場～

ねんりんピックの剣道競技は60～64歳が3名、65～69歳が1名、70歳以上が1名の5人で構成する団体戦でした。予選は兵庫県剣道連盟主催の年齢別選手権大会時に同時開催され、今年の予選を見ていた時に知人が「他県は女子も出場されていますよ」と話していたので、今年度は出場資格年齢に達したためチャレンジしました。

予選会申し込み後、「男女混成の予選会となります」と確認のお電話をいただき(笑)、なんとか5人の出場枠に入り、控え要員の2名を加え7名でチームが結成されました。全国大会までの稽古会や他県との交流試合を通じてチームが固まっていく過程は、人の成長に年齢は関係ないことを感じさせてくれました。若かりし頃にお世話になった方、以前から見知っていてもあいさつ程度だった方、今回初めて出会った方と一生に一度のチームを組み、全国大会に臨む体験は本当に貴重でした。

兵庫県選手団バス内は和やかで、子どもの頃のバス旅行のようでした。初日のホテルは男女比の関係で他競技の方と同室となり、初めは戸惑いましたが、それぞれの競技についての意欲的な取り組みについて話ができて、パワーを感じる交流ができました。

総合開会式では、濃姫に扮する美女たちと戦国衣装の鼓笛隊に迎えられ、兵庫県旗とともに県名の入ったのぼり旗を掲げ、関ヶ原合戦を模した入場。競技開催市町村の紹介、応援大使のトーク&体操を楽しみ、その後、夏の甲子園で活躍した岐阜商業高等学校の野球部と応援団に

よるエールを受けた時、兵庫県選手団から「来年も甲子園来いよ!」とエールを返された方がいたことは、とても誇らしく思いました。そして全員参加の郡上踊りは大いに盛り上がり、会場が一つになった素晴らしい時間でした。総合開会式とはこんなにも感動し温かいものなのだと心に沁み、良き思い出となりました。

剣道は各都道府県・政令都市68チーム(386人)が参加、そのうち女性剣士は8人でした。私は兵庫県初の女性選手として参加しましたが、大阪、岩手の女性選手は複数回参加されているとのこと。剣道の女性出場最高齢は75歳、男性は80歳超えが数名。剣道の特性として競技年齢は高いが、試合は特別なエネルギーを要するので、いつまでチャレンジできるものなのだろうと思っていましたが、今回の大会で自身の道をより明確にできました。

稽古も試合も生涯現役。ねんりんピック剣道出場者の最高齢者を目指したい。



剣道大会の会場にて兵庫県チームで記念写真。(左から3番目)



近畿
奈良県

2025 GIFU
NENRINPIC

ソフトボール

奈良フェローズ SBC
(選手)

いけはら きよふみ
池原 清文さん

69歳

● 参加歴：3回目

最高の選手たちとつかんだ奇跡のベスト4

10月18日～21日に開催されたぎふ大会に、ソフトボール競技で参加しました。今まで1回戦は勝っても2回戦で負けていたので、今回の目標は2回戦突破です。

19日の競技1日目、1回戦は山口県・大内シニアと対戦。8対5で接戦をモノにして突破。2回戦は、宮城県・山元クラブと対戦。7対4でこの試合も接戦で勝利し、目標を達成しました。予定では、夜に宴会をすることになっていましたが、明日の試合があるため、お酒は控えめに。

初めて迎える2日目は、すでに目標を達成したので、楽しんでソフトボールをしようと気軽に試合に臨みました。3回戦は、大分県・佐伯城山クラブと対戦。終盤に先制しましたがすぐに同点にされました。それでも最終回に1点を取って、サヨナラ勝ちをしました。その日の準々決勝は、香川県・瀬戸大橋クラブシニアと対戦。この試合も先制しましたが、同点に追いつかれ、最終回の表には逆転されました。

今回の目標は2回戦突破だったので、この日の宿泊は予定していませんでした。試合中に選手に確認すると、ここまで来たら勝って延泊しようと全員が言ってくれました。そうすると、なんと再逆転。2試合続けてのサヨナラ勝ちをしてしまいました。

試合が終わってからが大変でした。今夜の宿泊先を探し、選手たちは会社などへの連絡で大慌てでした。この日の夜も、明日の試合のため、お酒は控えめになってしまいました。

奇跡の3日目、準決勝では福島県・DMC常磐シニアと対戦。残念ながら1対7で負けてしまいました。そのあとすぐに3位の表彰式があり、揖斐川町長から表彰状とトロフィーと記念品をいただきました。さらにオリンピックの表彰式のように選手全員に銅メダルを架けていただきました。まさに奇跡の3日目を迎え、最高の選手たちを誇りに思いました。その日のうちに帰路につきましたが、感動と興奮の中、あらためてすごいことをやったのだなと実感しました。

奈良に帰ってからも、奈良県庁への表敬訪問や、地元香芝市の市長への表敬訪問と、初めてのことばかりでした。後日あらためて慰労会を開いて、美味しいお酒を飲みたいと思います。また参加することができたら、さらに上を目指して頑張りたいと思います。

最後に、お世話になった岐阜県大会関係者の皆様、本当にありがとうございました。



ベスト4に残り喜びに沸く奈良フェローズ SBC。(後列左から2人目)



グラウンド・ゴルフ

京都市
(選手代表)

なかにし のぼる
中西 昇さん

83歳

●参加歴：2回目

仲間との絆が深まった感動の4日間

5月15日にねんりんピック岐阜京都市予選会に参加し、羽東師チーム6人がねんりんピックの京都市代表に選ばれました。大会に向けて6人で4回打ち合わせをして、プリントの配布や確認などを行いつつ、楽しみ方などの話をしました。5カ月間、長いようで短い期間でした。

10月17日、京都市選手団はバス2台に分乗し、京都駅を出発しました。ホテルでの夕食会の前に行われた決起集会では、京都市長のビデオでの祝辞から始まり、各役員の方の祝辞の後、京都市選手代表として少し緊張しながら舞台上がり決意表明を述べました。

18日、いよいよ待ちに待った開会式。会場に到着すると、人、人、人。選手の笑顔、笑顔。わくわく感がこみ上げるなか式典が始まり、国歌斉唱、三笠宮家彬子さまのごあいさつ、炬火の点火と最高の演出が続き、最後の郡上踊りでは選手も輪になって踊りを楽しみ、感動の中、開会式が終了しました。

その日の夜は、ホテル近くの料理店で明日への挑戦に向けて一献を交え、6人で盛り上がりました。

交流大会1日目、開始式が始まる頃に降り出した雨は止み、いよいよゲームのスタートです。6人で円陣を組んで、威勢よく「やるぞ、オー」と声を出し、心を一つにして士気を高めました。さすが全国から集まった代表選手、手強いと思っているうちに1ゲーム、2ゲームが終了。思ったように成績が得られず残念。昨日と同じ店で、反省会と称しつつ美味しい食事とお酒に酔

いしれて、仲間と語りました。

交流大会2日目は晴天。今日こそはと会場入りし、最後のゲームにトライするも、思ったような成績を残せず、悔しさと力のなさを痛感しました。私たちの練習場は小学校のグラウンドですが、芝生広場でのゲームはなかなか手に負えませんでした。もう一度、出場するチャンスがあれば、克服して再び挑戦したいです。

夢にまで見たねんりんピックが終わり、打ち上げでは4日間の喜びを語り合い、6人の絆がより一層深まりました。これからも良き人生の友でありたいです。この経験を力に、これからも地域社会において、私たちにできる福祉・ボランティア活動に携わってまいります。

最後に、今大会の準備から実施・運営に関わった関係者、ボランティアの皆様にご挨拶申し上げます。感動をありがとう、おもてなしをありがとう、人生の思い出をありがとう。

京都市引率役員の皆様にも4日間お世話になり、ありがとうございました。



待ちに待った感動の開会式を終えて。(前列左端)



ダンススポーツ

みやびで楽しい仲間たち
(監督兼選手)

たに ぐち かず よし
谷口 主嘉さん

71歳

● 参加歴：5回目

準優勝は「旅のしおり」のおかげ？

私たち京都市ダンススポーツチーム「みやびで楽しい仲間たち」は、チーム名が示す通り、優雅さと陽気さを兼ね備えたメンバーで構成されています。

もちろん、ねりんピックに参加する一番大きな目的は、全国の仲間たちとの親睦、つまり「美味しいものを食べ、語り合い、飲み会をして仲良くなること」に尽きます。そのため、チーム編成が決まるとすぐに、綿密な「旅のしおり」を作成したメンバーがいたことは、私たちの団結力を示す最高の証拠でしょう！

しかし、忘れてはいけないのが、全員が競技ダンサーであり、フロアに立てば真剣勝負だということです。全国から集まった190組を超える強者たちと戦うわけですから、気合が入らないはずがありません。

個人戦では、私たち京都市チームから4組が参戦し、大活躍を見せました。特に素晴らしい

結果が出たのが、ワルツの1位、タンゴの1位、チャチャチャの5位・6位、そしてルンバの4位・8位です。

決勝まで勝ち上がると、各種目合わせて24回も踊ることになるのですが、エレガントな笑顔の裏で、足腰や心臓が悲鳴を上げていたのは秘密です。そして、大会の最も盛り上がる瞬間といえば、総勢51チームが競い合う団体戦です。私たちは1次予選、2次予選、3次予選を勝ち抜き、準決勝もクリアし、ついに7チームによる決勝戦のフロアに立ちました。他のメンバーが踊っている間、応援席から送った声援は、文字通り「声が枯れてしまうほど」の大熱狂！その声援が通じたのか、なんと京都市チームは激戦の末、準優勝という栄冠を勝ち取ることができたのです。

競技後の達成感と疲労が最高潮に達した夜は、もちろん「親睦」という名の大会です。この宴会には、デモンストレーションを踊った日本チャンピオンまでお招きし、準優勝の喜びと、親睦の喜びを分かち合いました。

競技に真剣に取り組み、結果を残し、そして仲間と心底楽しむことができた、本当に楽しみまくった最高の3日間でした。今回のねりんピックで得られた「喜びを分かち合う絆」と「最高の健康状態」は、私たちがこれからも地域やダンスライフで輝き続けるための活力となります。



これから団体戦。頑張るぞ！（右から2番目）



近畿
大阪市

2025 GIFU
NENRINPIC

サッカー

大阪市選抜チーム
(選手)

あずま とみ かず
東 富和さん

64歳

● 参加歴：1 回目

人と人をつなげる「スポーツの力」を実感

私がサッカーを始めたのはJリーグが開幕した1993年で、気づけば32年になります。

先輩のすすめで選考会に挑戦し、2度目の挑戦でぎふ大会の大阪市選抜メンバーに選ばれました。ポジションはGK（ゴールキーパー）。しかし、周囲はサッカー歴50年以上の大ベテランばかりで、自分がチームの足を引っ張らないか、本当にやっつけていけるのか、不安のほうが大きかったのが正直なところでした。

そんな中、大阪市選手団結団式での選手宣誓、総合開会式での旗手という大役まで任せられ、喜びと緊張の気持ちで大会開催を楽しみに待ちました。

そして迎えた総合開会式。会場に足を踏み入れた瞬間、多くのスタッフの皆さんが丁寧に準備し、温かく迎えてくださっている姿が目飛び込んできました。さらに地元高校生たちが笑顔でさまざまな応援パフォーマンスを披露してくれ、なかでも夏の高校野球の応援再演が胸に響き、「この舞台に来られて本当に良かった」と心から思いました。

サッカー競技は2日間にわたり3チームの総

当たり戦で、どの試合も勝敗が順位に直結する緊張感のある形式です。初日に2連勝して悪くない流れでしたが、他チームの結果次第で順位が変わるため、最後まで油断できない状況が続きました。

迎えた2日目の最終戦は、大阪市選抜として4連覇のかかった大一番。プレッシャーの中でPK献上し、後半は相手に押し込まれる苦しい展開となりましたが、全員で声を掛け合い、体を張って守り切って1対1で試合終了。2勝1分けの成績と得失点差により、見事1位となり4連覇を達成しました。

優勝が決まった瞬間、仲間たちと歓声を上げ、互いの健闘を称え合った光景は今も胸に残っています。また、家族の前で良いところも見せられて良かったなど。大会を通じて、経験年数や地域を超えて生まれる「スポーツのつながりの力」を深く実感しました。

最後に、大阪市選抜の仲間、キャプテン、初心者同然の私を信じて起用してくださった監督、大阪府地域福祉推進財団事務局の皆様、そしてぎふ大会の運営関係者の皆様に心より感謝

申し上げます。来年も選出していただけるよう、さらに精進していきたいと思います。



声を掛け合い全員で金メダルを勝ち取った大阪市選抜チーム。(後列右端)

水 泳

わたり たつ み
渡利 立美さん

86歳

● 参加歴：18回目

背泳ぎ 25m、50m
(選手)

元気に泳ぐ姿を、大人になった孫に見せたい

ねんりんピックの出場は2002年のふくしま大会から始まりました。今回の大会で18回目の出場となります。今年の水泳競技で高齢者賞もいただきました。

水泳は子どもの頃から習っていて、子育てが一段落した55歳の時に再開し、もう30年になります。子どもの頃から泳ぐことが大好きで、現在は身体の痛みを感じても、水に入ったらその痛みも忘れるほどです。医師にも「水泳が治療につながっているのであれば、病院通いよりも水泳を続けたほうがいいね」と言われます。マスターズや世界大会にも出場し、ハワイにも競技で4回行きました。

最近では週4日、1回2km泳いでいます。クロールや個人メドレー（4種目）を泳いでいた時期もありますが、現在は背泳ぎを専門にしています。ターンがあまり得意ではないので、短水路のプールよりも長水路のほうが良い記録が出ます。直近では、2025年12月に和歌山県で開催された「秋葉山マスターズ水泳競技大会」に出場し、100mで2:05.84の記録が出ました！

ねんりんピックの出場はいつも楽しみにしています。全国の選手の方と友だちになったり交流することができ、また他の選手の泳ぎを見ることで自分も刺激を受け、まだまだ頑張ろうと思えます。いつも試合後は延泊をして、周辺の観光をすることも出場する楽しみの一つです。関西から遠方の地域でも、ねんりんピックの出場に

よって観光することができ、その地域を知るきっかけにもなります。

今回のぎふ大会で特に思い出に残ったのは、総合開会式を観覧席で観るだけではなく、グラウンドに降りてみんなで郡上踊りに参加できたことです。今までのねんりんピックにはない総合開会式で、とても楽しかったです。企画してくださった岐阜県や関係者の皆さん、ありがとうございました！

子どもや孫が東京に住んでいるので、次の埼玉大会、3年後の東京大会に出場することが、まずは直近の目標です！幼児の頃「おばあちゃんのプールは大きいね！」とびっくりしていた孫もすっかり大人になりました。その孫に元気で泳いでいる勇姿を見てもらいたいです！

水泳は私の人生において生きがいの一つで、楽しい時間です。これからもまだまだ続けて、健康を維持したいと思います。



優勝の賞状を胸に、堺市選手団のメンバーと。(前列右端)